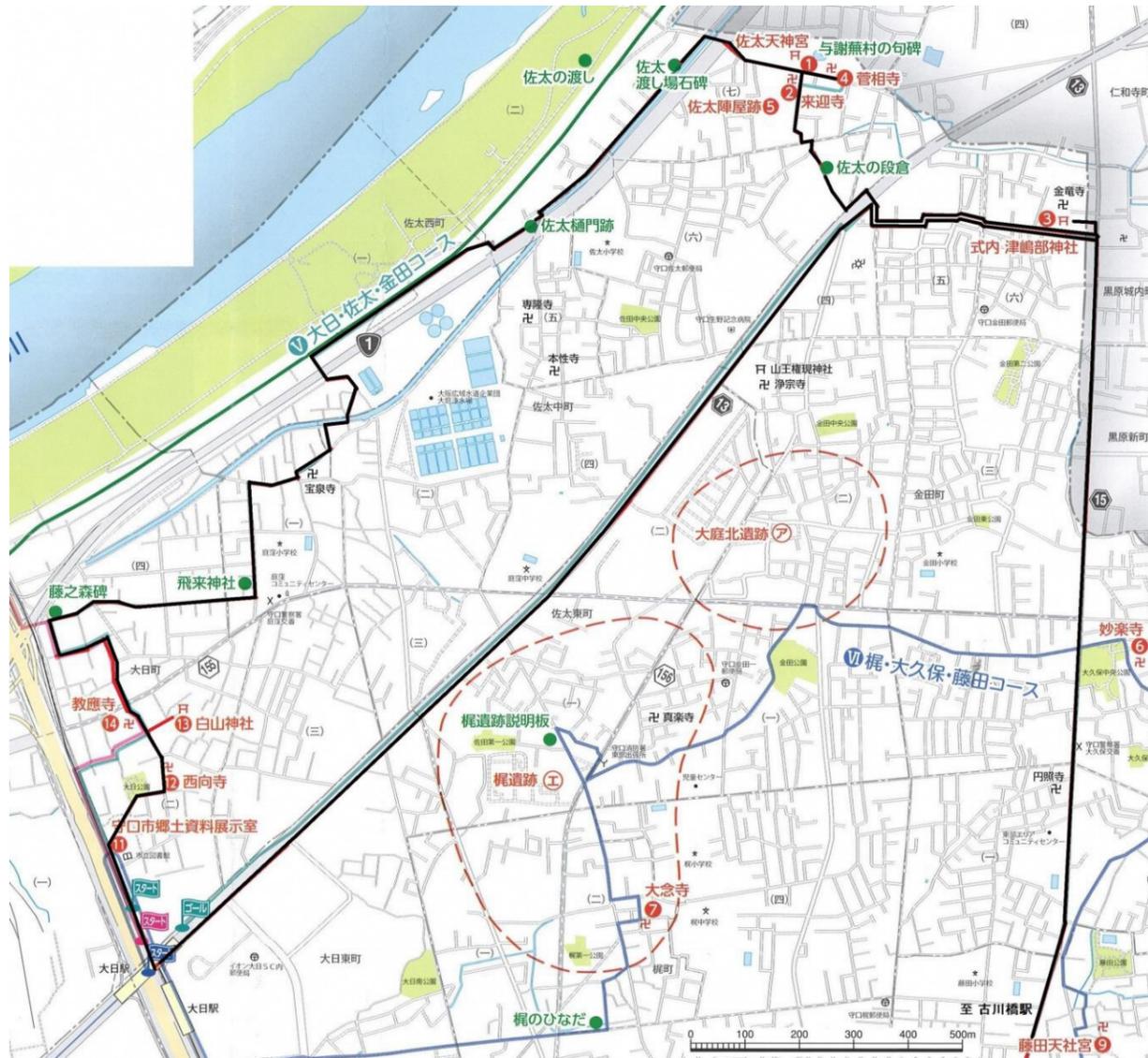


もりぐち ぶらり歩き マップ

史跡散策コースV (健脚) 大日・佐太・金田コース



大阪メトロ・大阪モルレル大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (320m) - ⑬白山神社 - (60m) - ⑭教應寺 - (340m) - 藤之森碑 - (420m) - 飛来神社 - (1100m) - 佐太樋跡碑 - (450m) - 佐太渡し場石碑 - (200m) - ①佐太天神宮 - (50m) - ②菅相寺 - (50m) - ③来迎寺 - (50m) - ④佐太陣屋跡 - (120m) - ○佐太の段倉 - (600m) - ⑤式内津嶋部神社 - (2500m) - 大阪メトロ・大阪モルレル大日駅 (津嶋部神社 - (2500m) - 京阪電車古川橋駅。京都守口線佐太天神前バス停から大日行バス、八尾茨木線宮垣内バス停から京阪古川橋駅前行バスあり) (全 6,440m) (○番号は守口文化財ガイドマップと共通)



しらやまじんじゃ
⑬白山神社



きょうおうじ
⑭教應寺



ひらいじんじゃ
○飛来神社



さたひあとひ
○佐太樋跡碑



さたとせんじょうあとひ
○佐太渡船場跡碑



さたてんじんぐう
①佐太天神宮



かんしょうじ
②菅相寺



らいこうじ
③来迎寺



しきないつしまべじんじゃ
⑤式内津嶋部神社

史跡散策コースV (健脚)

大日・佐太・金田コース

大阪メトロ・大阪モノレール大日駅 - (180m) - ⑪守口市郷土資料展示室 (守口市立図書館内) - (320m) - ⑬白山神社 - (60m) - ⑭教應寺 - (340m) - 藤之森碑 - (420m) - 飛来神社 - (1100m) - 佐太樋門跡碑 - (450m) - 佐太渡し場石碑 - (200m) - ①佐太天神宮 - (50m) - ②菅相寺 - (50m) - ③来迎寺 - (50m) - ④佐太陣屋跡 - (120m) - 佐太の段倉 - (600m) - ⑤式内津嶋部神社 - (2500m) - 大阪メトロ・大阪モノレール大日駅 (津嶋部神社 - (2500m) - 京阪電車古川橋駅。京都守口線佐太天神前バス停から大日行バス、八尾茨木線宮垣内バス停から京阪古川橋駅前行バスあり) (全 6,440m)

(○番号は守口文化財ガイドマップと共通)

⑪守口市郷土資料展示室

大日の守口市立図書館1階に、守口市郷土資料展示室をあらたに開設した。郷土資料展示室では、様々な実物資料や写真パネルを使って、守口市の地形・地質や、原始時代から近世・近代までの守口の歴史をたどれるよう展示をしている。



⑬白山神社・藤之森碑

旧の三番村・四番村・六番村の氏神で、もとは北西に約300mの御旅所の位置にあったといわれ、今その地には「藤之森」の石碑 (写真右) が建てられている。現本殿は覆屋の中に一間社流れ造の白山大権現・春日大明神の二殿が左右に並置されている。建立時期は江戸時代中期の元禄から享保の間と見られている。鳥居には「正徳五年 江戸田井三右エ門秀弘 松屋町石大工仁兵衛」の銘がある。



白山神社本殿



藤之森碑

⑭教應寺

高林山教應寺と号し、現在は浄土真宗本願寺派の寺院である。創建については詳らかではないが、本尊の阿弥陀如来立像からみて、江戸時代半の建立かと思われる。山門横の釣鐘は明治時代に東三国の大願寺から買い取ったものだが、宝暦7年(1757)の銘を有する由緒深いものである。



教應寺鐘楼

○飛来神社

佐太天神宮の旧御旅所で、江戸時代中期に天之御中主神が勧請され、さらに菅原道真が昭和三五年に合祀された。



飛来神社境内

○佐太樋跡碑

佐太樋は旧二番村字井ノ口にあり、「二番井ノ口樋」と呼ばれ、明治以降は「佐太樋」ともよばれた。この樋から大庭庄・門真庄の十一ヶ村が用水を引いていた。



佐太樋跡碑

○佐太渡船場跡碑

淀川佐太の渡しの際の記念碑。現在は、佐太天神宮から国道1号線を西にわたり、さら淀川左岸水路にかかる天神橋を西に渡った植込みの角に立っている。



①佐太天神宮

菅原道真が太宰府へ流される途中、舟を繋いだ処で、菅公死後の天暦年間(947~57)に祠が建てられたのが創建とされている。現在の社殿は領主永井尚政・尚庸父子や豪商淀屋辰五郎等の保護のもとに整備され、寛永17年(1640)建立の本殿、慶安元年(1648)の石門・拝殿・幣殿等、江戸初期の建物が残されており、平成15年に本殿・幣殿・拝殿が大阪府の有形文化財に指定された。



石門から本殿を望む

②菅相寺

平安時代中期の創建と考えられ、かつては境内も広大であつたらしい。当初は真言宗だったが、正保元年(1644)に永井尚政が萬安禅師を招いて曹洞宗に改宗し、現在は宇治興聖寺の末寺となっている。本堂は慶安4年(1651)永井家が再建したもので、小規模ながら市内の仏堂建築としては最古のものとして貴重である。また、境内に残る石製露盤(花崗岩製)も室町時代の遺品として極めて貴重なものである。



菅相寺石製露盤

○佐太の段倉

屋敷地に3棟の土蔵が連なるが、北西隅の土蔵の石垣が最も高く、段々に南ほど低くなっている。



佐太の段蔵

②来迎寺

実尊誠阿上人が貞和3年(1347)に下仁和寺庄守口村に一字を建立したのが始まりとされ、延宝6年(1678)に現寺地を寄進され定堂して発展した。享保3年(1718)再建の客殿及び玄関、明和2年(1765)再建の庫裏、安永4年(1775)の長屋門、江戸時代後期の表門(四脚門)・土塀などを残す。また、当寺に伝わる絹本着色八幡曼荼羅図は国の重要文化財に指定されており、絹地に彩色で男山八幡宮の七社の神像を巧みに描いた鎌倉時代の優品である。寺庭の石造十三重塔は嘉元2年(1304)「寺講衆四十余人」の銘文があり、鎌倉時代の石塔として大阪府指定有形文化財となっている。石造十三重塔



④佐太陣屋跡

永井尚庸が貞享4年(1687)に設けた陣屋で、永井氏の蔵屋敷の役目も兼ね、年貢米納入や特産物集積、大坂での取引や藩の金融業務など、永井氏の台所の役割を担っていた。現地は佐太老人センターになっていたが、来迎寺との境界に石垣が残っている。



佐太陣屋跡の石垣

⑤式内津嶋部神社

津嶋部神社は『延喜式神名帳』に記された式内社で、津嶋女大神、素戔鳴尊、菅原道真を祭神としている。元禄年間(1688~1704)再建の社殿は、明治15年(1882)再建の現在の社殿と同規模で、当時の隆盛がうかがえる。当社に残る慶長13年(1608)の銘をもつ笏谷石製狛犬は、府下で最古の紀年銘をもつ狛犬で、平成12年に市有形文化財に指定した。



津嶋部神社石製狛犬